

第9期 東久留米市地域産業推進協議会
第1回会議録

- 1 日 時 令和7年5月22日（木）午後6時00分～午後7時20分
2 会 場 東久留米市役所 7階 703会議室
3 出席者等（敬称略・五十音順）

赤星 良平	荒 昌史 ※リモート	榎本 義樹	陰山 ひとみ	工藤 真知子	小山 昌宏
齋藤 真理	塩野 麻里	篠宮 晴彦	土田 健太郎	野崎 林太郎	細田 真之介

欠席：なし

4 議 事

1 開 会

2 委嘱書交付

3 市長あいさつ

4 委員自己紹介

5 会長及び副会長の選任

6 会長及び副会長あいさつ

7 報告事項

（1）前期までの経過について

8 協議事項

今後の進め方について

（1）企画推進事業部の設置について

（2）企画推進事業部委員について

9 その他

10 閉 会

1 開 会

【事務局】

このたびは、第9期東久留米市地域産業推進協議会委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。

ただいまから第9期第1回地域産業推進協議会を開催する。会長・副会長が選任されるまでの間、事務局が司会進行を務めさせていただくので、よろしくお願いします。

始めに、本日の配付資料を確認させていただく。

【事務局】

(配付資料の確認)

2 委嘱書交付

(富田市長からリモートを除く本日出席の11名の委員に委嘱書の交付を行った。)

3 市長あいさつ

【市長】

第9期の地産協が本日からスタートするが、前期から継続の方も、今期から新規で就任される方も、お忙しい立場にもかかわらず委員を引き受けていただき感謝申し上げます。

東久留米市は法人市民税がたばこ税よりも低く、6億円行くか行かないか程度である。ベッドタウンであるため、ビルが連立することを望む市民の方はいないだろうと思うが、人口減少社会がこれからどんどん進行していく中では、昔ながらのベッドタウンのままでは厳しいと感じる。住みやすさを維持しながら一步前に進んで、他の自治体から人が訪れることや、地域で経済が回ることを目指しているが、役所単独でできることには限りがある。幸いにも、地産協は初代の委員から、市と連携を密にして効果的な施策を展開してもらっている。直近でもナイトマルシェのような大規模でないものの地域の方々に喜んでもらえるイベントを展開してもらっており、第9期の委員も新たなアイデアを持っているかと思う。役所としても下支えさせていただき、委員の皆様の活発な議論で生まれたアイデアを発信するように取組みを進めていくので、自由に様々な発想を出していただきたい。東久留米の発展は委員の皆様の双肩にかかっているといっても過言ではないかと思うので、何卒よろしくお願いしたい。

4 委員自己紹介

(席次順に各委員自己紹介、その後に事務局の紹介を行った。)

5 会長及び副会長の選任

(土田委員及び榎本委員の推薦により、会長に赤星委員、副会長に野崎委員を選任)

6 会長及び副会長あいさつ

【会長】

第7期から委員を務め、第8期では副会長に就任し、今期で3期目となる。今期は新規の委員が4名であり、会長・副会長、そして事務局側においても部課長が変わって、不安を感じる委員もいるかもしれないが、若手の委員も増えたことで新しいことにチャレンジできるメンバーが揃ったように感じているため、自分としては楽しみに思っている。委員の皆様にはできる限り会議に参加いただき、共に作り上げていくような会議体としていきたい。また、会議を通じ、東久留米市で活躍できる人材として我々自身も成長していければと思う。初めての会長で至らない点もあるかもしれないが、2年間委員の皆様と共に楽しくわくわくして活動できればと思う。

【副会長】

第7期から委員を務め、今期で3期目となる。前期では副会長が会長を支え、全体の推進役としてまとめていたため、それを自分でできるか少し不安を感じることもあるが、3期目であるので、今期はその立場でやらせていただければと思う。今まで委員として心がけていたことは、会議に出たら合っている間違っていても自分の意見を発言することである。地産協は何かを推進していく前向きな協議体なので、自分の意見を発言し活発な議論をすることで新しいことを生み出すヒントになればと考えたためである。委員それぞれで自分の事業、価値観、想いを持って集まっているかと思うので、遠慮なく意見を発言し前に進んでいければと思う。自分自身としては副会長の立場として、自分の意見を言いながらもそれをまとめ、会長を支える立場になればと考えている。

【事務局】

会長、副会長が選任されたため、これからの議事を会長にお願いします。

7 報告事項

(1) 前期までの経過について

【会長】

前期までの取組み経過について、事務局に説明をお願いします。

【事務局】

お手元に配付した資料1「東久留米市地域産業推進協議会設置要綱」をご覧ください。

要綱の第1にあるとおり、この協議会は「東久留米市における産業振興事業の推進にあ

たり、各関係機関、諸団体などが相互のつながりを強化し、協働事業として実施するため」に設置されたものである。ここでいう「産業振興事業」とは、「農業及び商工業のほか、市の資源を生かした観光、教育、文化及びスポーツ事業等を包括し、かつ、市内の農業者及び商工業者の事業が活性化する」事業と定義している。この協議会は、平成14年に設置した「東久留米市地域産業振興会議設立準備会」が始まりであり、平成20年度に「東久留米市地域産業推進協議会」へと移行して、今期で9期目となる。

これまでの取組みとしては、地域の農産物を使った特産品の開発、「湧水の妖精るめちゃん」の制作、街バル、ダイヤモンド富士、開運七福神めぐり、空き店舗情報提供制度などを実施してきた。

前期となる第8期協議会では、第7期から継続して「イベント推進事業部」「情報発信推進事業部」「新産業創出推進事業部」の3事業部制をとり、様々な事業を実施した。各事業部の概要と取組みを簡単に説明させていただくと、「イベント推進事業部会」では、にぎわいの創出を目的として、第7期から取り組んでいる「東久留米西口駅前ナイトマルシェ」について、2回目となるVol.2を実施した。また、2回目の開催以降は、これらの取組みを継続するため、協議会や行政の主催から民間事業者主催への実施主体へ変更するための検討を行い、それらの検証を行うべく3回目、4回目の実施を行って仕組みを構築した。

「情報発信推進事業部会」では、SNS「はしっこチョコっと東久留米」の運用を継続して地域の情報や、協議会の事業に係る情報発信を実施した。また、当協議会で誕生した地域資源推進キャラクター「湧水の妖精るめちゃん」を活用して、地域の資源にスポットを当てたコンテンツ作りを実施した。

「新産業創出推進事業部会」では、「市の税収増」を目的とする中、「移住・定住の促進」をテーマに掲げて「創業支援」事業に取り組んだ。TOKYO創業ステーションTAMAともコラボレーションして、創業支援トークイベント「心が湧く アイデアが湧く 東久留米で湧く」を企画実施し、熱意のある参加者を集め地域の人や場とつなぐ「人と人・場をつなぐプラットフォーム」を実現した。

簡単ではあるが、第8期までの活動、第8期での3事業部の説明は以上である。

8 協議事項

今後の進め方について

(1) 企画推進事業部の設置について

【会長】

続いて、「次第8、協議事項」「今後の進め方について」「(1) 企画推進事業部の設置について」である。事務局から説明があった取組経過を踏まえ、企画推進事業部、すなわち部会の設置について、新たな期を迎えるに当たり自分の方から提案していきたい。

前期は事務局から説明があった通り三つの部会構成で取り組んでおり、9期についてはそれらを踏襲する形で進めていくが、その中で、委員の皆様と新たな取組みやアイデアを

推進していきたいと思っている。そのため、事業部をにぎわい創出推進事業部と創業支援推進事業部の二つで構成し各委員にはそれぞれどちらかの部会に所属してもらうよう考えている。これらの名称については仮称であるため、各部会で名前を正式決定してもらえればと思う。にぎわい創出推進事業部では、前期のイベント推進事業部や「東久留米西口駅前ナイトマルシェ」を踏襲していければと思う。創業支援推進事業部では、前期の新産業創出推進事業部や創業支援イベントを踏襲していければと思う。情報発信推進事業部に関しては、情報発信自体はどちらの部会でも必要なものであるため、一つの部会として情報発信に取り組む形にせず、会長、副会長、各事業部長及び情報発信を担う委員が所属する統括連絡部会を作り、各事業部に横串を刺すような連携で情報発信をしていく。

東久留米には駅が一つしかなく、駅をもっと賑わいの場にしたいという課題を感じている。また、市西部地域、特に滝山地域に様々な課題があるように感じている。前期に行った創業支援イベントについては次回開催を望む声もあり、前は「人と人をつなげる」をテーマとしたため、今回は「人と場をつなげる」をテーマに滝山地域で開催できればと考えている。以上から、自分のイメージとしては駅前や滝山地域を舞台ににぎわい創出や創業支援につながることを委員の皆様と考えて取り組んでいきたいと思っている。ただし、地域に関しては限定するつもりはなく、変わってしまっても問題ない。提案は以上であるが意見等はあるか。

【副会長】

補足をさせていただく。8期までの3部会構成は、自分が委員として関わった7期やそれ以前からもあった体制である。その体制の中で取り組めたこともあり、新しいことも創出してきたが、会長がおっしゃったように、具体的な取組みや前向きな提案が出てくる中で、行政や地域に課題が出てきた際にそれにどう向き合うかが今回部会を刷新したテーマであると思っている。そのため、今まではタスクベースで部会が構成されてきたが、今期は課題や委員として取り組みたいことなどのテーマをベースとした部会構成となっていると考えている。その上で忘れてならないのは、取り組んでいる内容を情報発信することが重要であり、事業を行っているセクションが直接発信できると良いということである。前期では自分も情報発信推進事業部会の一員として活動したが、他の部会の取組みを情報発信推進事業部会で発信するのは難しい面があった。一方で、情報発信推進事業部会ではるめちゃんを活用した新しく質の高い情報発信ができたと思うので、会長のおっしゃったような課題感をもって推進する事業部と、部会の横串が刺さった状態で情報発信できる仕組みにしていくのが、今期における部会変革の趣旨だと思っている。色々と難しい面もあるかと思うが、このあと委員の方々が部会に所属していく中で議論も活発化し事業を推進できていると思っている。

【会長】

他にご意見等もないようなので、「にぎわい創出推進事業部会」「創業支援推進事業部会」の2部会と、「統括連絡部会」を設置する。また、これらの名称については、あくまで仮称

なので、後ほど部会の活動の中で、ふさわしい名称があれば、変更していただいても構わない。

（２）企画推進事業部委員について

【会長】

続いて、「（２）企画推進事業部委員について」である。皆様にどの事業部に加わっていただくかを議題とする。本来であれば、皆様のご希望に添う形で事業部を決められるのが一番良いが、事業部ごとの人数のバランスや、本協議会の設置目的の一つである「関係諸団体等が相互のつながりを強化する」といったことを考えると、それぞれの事業部に異なる団体から推薦された委員に加わっていただくということも重要な要素である。そのため、皆様の希望を聞いていく形ではなく、私に割振りを一任していただく形としたいがよろしいか。

【委員一同】

異議なし。

【会長】

それでは、私から割振りをさせていただきます。

（会長の割振りにより、以下のとおり決定）

■ にぎわい創出推進事業部

- ・赤星良平会長、荒昌史委員、工藤真知子委員、齋藤真理委員、篠宮晴彦委員、土田健太郎委員とする。

■ 創業支援推進事業部

- ・榎本義樹委員、陰山ひとみ委員、小山昌宏委員、塩野麻里委員、野崎林太郎委員、細田真之介委員とする。

【会長】

以上の割振りをお願いしたい。自分や副会長も委員の皆様と事業を推進したいため、事業部に所属する。また、これは一つの担当という形であり、他の事業部に携わってはいけないといったものではない。割り振られた事業部以外に自分がやりたい事業部があれば別の事業部会に参加いただいても大丈夫である。その場合には事務局にその旨を伝えていただきたい。加えて、委員の皆様積極的に参加していただけるような協議体を目標としているため、進んで参加したくなるような運営を共にやっていければと思う。

また、事業部長の選任についても私に一任いただければと考えているがよろしいか。

【委員一同】

異議なし。

【会長】

それでは、にぎわい創出推進事業部会の事業部長には土田健太郎委員、創業支援推進事業部会の事業部長には榎本義樹委員を選任する。

～各事業部長から挨拶～

【会長】

なお、副事業部長に関しては、各事業部長の下で互選となるため、後ほど選任いただければと思う。また、統括連絡部会に関しては、会長・副会長として赤星会長、野崎副会長。各事業部長として土田委員、榎本委員。前期に情報発信として関わった陰山委員、齋藤委員、そして有識者として荒委員に参加いただければと思う。

今期、新たな事業部体制となり、前期から継続するもの、新たに実施したいものもあると思うが、ぜひ委員の皆様の意見を参考にしながら事業部長を中心に検討し、東久留米の産業振興事業を図って行ければと思う。

ここで、事務局から各委員に資料配付をお願いする。

～事務局による資料配付～

【会長】

ただいま配付した資料について、事務局に説明をお願いする。

【事務局】

ただいま資料を3枚配付させていただいた。

1番上の資料は、先ほど会長に割り振っていただいた推進事業部会を記載した名簿となっている。

2枚目の資料は、協議会開催スケジュールの案である。地域産業推進協議会は、全員で参加する本会議と推進事業部会の2種類の会議がある。まず本会議については、3～4か月に1度程度の割合で開催する予定であり、委員全員が参加する会議となる。また、2つの推進事業部会については、本会開催の間に2回程度の割合で開催し、検討状況や取組内容を本会議で報告する。事業部会の開催スケジュールについては、部会員の皆様の間で日程調整をお願いしたい。この本会終了後、各部会で顔合わせを行い、連絡などを取っていただければと思う。そして、統括連絡部会については、本会の開催日に合わせて開催する予定となっている。

また、各イベント（事業）は部会で検討、実施していくが、人数が必要な場合などには本会等で委員全員に協力を依頼することもある。さらに、協議会任期は2年以内となっているので、2年目の最後には各事業部で報告書を作成し取組内容等をまとめることとなっている。

3枚目の「令和7年度の予算について」は、令和7年度に事務局で確保した地域産業推

進協議会のための予算である。報償費については、委員の謝金用の予算と、事業をした際に講師へ支払う謝金の予算を確保している。需用費については、事業実施時にチラシなどの印刷用の予算と、るるめちゃんの着ぐるみを修繕するための予算を確保している。また、役務費については、るるめちゃんの着ぐるみをクリーニングするための予算を確保している。地産協では事業実施時にジャンパーを用意しているが、こちらのクリーニングは隔年で行う形となったため、今年度は予算化していない。

説明は以上である。

【会長】

ただいま事務局から説明があったが、なにかご質問等はあるか。

(特に質問なし)

【会長】

ないようなので、議事を進行する。

9 その他

【会長】

続いて、「次第9、その他」であるが何かあるか。

(特になし)

【会長】

ないようなので、議事は以上とさせていただく。

10 閉 会

【事務局】

今回の開催については、目安として8月頃を予定している。各事業部の進捗を踏まえて改めて日程調整させていただきたいと考えているので、よろしくお願いします。また、本会閉会后、各部会に分かれ顔合わせいただければと思う。これにて第1回東久留米市地域産業推進協議会を閉会とさせていただく。